

発行責任者：貝原吉男 豊能郡豊能町ときわ台 5-1-5 (TEL 072-738-1900)

E-mail: yhahr172@maia.eonet.ne.jp (URL <http://koureidaitoyono.web.fc2.com/>)



新年明けましておめでとうございます 本年も宜しくお願い致します



会長 貝原吉男

皆様お元気で新年をお迎いの事と拝察申し上げます。

平素より同窓会活動へご協力を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

昨年のお世相を表す漢字に「金」が選ばれておりました。我が同窓会豊能でも昨年は101名の会員が各種行事で様々な活躍をされ、中でも「ひまわり会」(歌体操)や「豊能語り部の会」また「歴史の会」「手作り玩具の会」の皆様による地域ボランティア活動は金メダルに匹敵すべきものと思っております。

さて、昨年も米大統領選におけるトランプ氏の勝利や初の女性都知事の誕生、五輪にまつわる各種問題の提起、そして熊本大震災等、国の内外で様々な考えさせられることがありました。これから4月に向け、各地域の同窓会におきましては29年度の新しい会員を迎えるべく、ONCC(大阪府北部コミュニティカレッジ)地域交流会や、連協では校友会を中心とした様々な募集活動を展開してまいります。

幸い同窓会豊能の昨年度新会員加入率は大阪府内でもトップクラス(高大7%、ONCC47%)を達成する事が出来ましたが、これは現会員の方々からのご紹介、宣伝によるものが大きく寄与していると思っております。一方、個人情報保護、同窓会のインパクトの弱さ、魅力の欠如等から各地区とも年々募集活動が厳しさを増しております。

最近、「100歳人生を考える」と題した國松善次さん(元滋賀県知事、健康・福祉総研理事長)のお話を聞く機会がありました。100歳以上の人は2016/9現在65,692人2050年には683,000人が見込まれるそうですが、その長寿の要因には様々な項目がありますが、なかでも「楽しむ」「食べる」「運動する」ことを大切に「健康な生活の習慣化」を図る事がその秘訣であるとの事でした。役員一同、今後とも会員の皆様により健やかな健康生活を送られますよう、「明るく、楽しく、元気な」魅力ある同窓会作りを目指して活動してまいりたいと思っております。会員の皆様の各種行事への積極的なご参加を宜しくお願い致します。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



「図書館オトナの大学」に参加しました！

28期 貝原 吉男

11月26日（土）今回の「図書館オトナの大学」は「高代寺の良寛歌碑をめぐる」をタイトルで古寺さんを代表とする歴史の会の皆様6名で参加いたしました。

参加者は26名で歴史の会会員5名が古寺さんとの対話形式で会が進行しました。

高代寺にある良寛の歌碑

高野のみ寺に宿りて

”津の国の高野の奥の古寺に杉のしずくを聞きあかしつつ“

（昭和51年 岡元勝美氏 建立）

の歌の「津の国」は「紀の国」の誤りではないのか？、良寛は果たして豊能町へ来たのだろうか？について、肯定派、否定派に分かれた形で講義が進められていきました。

この議論は100年以上前から相馬御風をはじめ幾多の文人、学者の方々により連綿と続けられいまだに結論が出ていません。

古寺さんにお作り頂いたレジュメ

1. 高代寺の由緒
2. 良寛の略歴、歌碑
3. 良寛が歌を詠んだ場所に関する諸説
4. 高代寺説の検討と支持者
5. 高代寺への道筋（旧街道）

を基に解説して頂き、13:30~15:00の1時間30分間楽しく勉強が出来ましたし、また、参加者からの質問や否定派からの反論もあり、あっという間の90分でした。

勿論、100年以上の議論に終止符を打つなんて事は出来ませんが、開講前には5名だった肯定派が受講後には20名近くになっていました。なにより高代寺に良寛歌碑がある事が全員に理解された事そのものが今日の成果だったと思いました。

我が町豊能に良寛あり！

次の「オトナの大学」は「豊能検定 中級編」を予定（29年春頃）されているとの事ですが楽しみです。

（歴史の会出席メンバー 古寺、木村、藤原、香川、二川、貝原）



伊丹市街のまちあるき



高大2期 後藤銃吾

11月29日(火)10時に総勢10名(男女各5名)がJR伊丹駅前に集合した。天気は良好で、冷え込みもなく快適な街歩き日和であった。NHKの大河ドラマ「黒田官兵衛」で一躍脚光を帯びた有岡城跡を右に見て、藤原さんの解説で始まった。荒木村重は池田氏の家臣から頭角を現し、有岡城主になって摂津一円を支配下におさめ、ついに信長と敵対し、敗れて毛利氏にかくまわれ、晩年は秀吉のお伽衆になり天寿を全うした。また、有岡城は侍町や町屋を含む惣構となっているのが特徴で、周りは堀や土塁で守られていたなど色々と興味深い話を伺った。

駅前をスタートし、荒村寺、本泉寺を経て大坂道を南下、南北に長い惣構の南端近くまで歩いた。荒木村重の名からとられた荒村寺は村重ゆかりの寺で、法話、座禅なども体験できるそうであるが、残念なことに今回は住職さんが不在で実現しなかった。本泉寺は楠公関連の墓碑があるということであたりを見回したがそれらしきものは見つからなかった。次に進路を北にとり、墨染寺、法厳寺を経て猪名野神社へ向かった。墨染寺には信長に殺害された城中の婦女の供養塚「女郎塚」、荒木村重の墓と伝えられる「九層の石塔」、芭蕉と並び称された「上島鬼貫の墓碑」などがあった。法厳寺には樹齢500年といわれる楠の大木があり、その威容を拝見した。

猪名野神社には12時20分ごろに到着して、昼食の弁当を開いた。ちょうどそのころは天気が



良く、春の陽だまりに腰かけているのと見まがうほどの陽気であった。猪名野神社は有岡城惣構の北端で、東は天然の崖になっており、西には土塁跡が見られた。黄色く紅葉したムクロジの木を見て、みやのまえ文化の里へ向かう。旧岡田家を見学し、ビデオ、今に残っている酒造りの設備などを拝見し、旧石橋家にも立ち寄った。

白雪の長寿蔵ショップに立ち寄り、白雪の各種製品を品比べしてお土産などを調達した。ここで「きき酒の試飲」、疲れも吹っ飛び気分爽快で伊丹まち歩きを終了した。

有岡城跡から四方を眺め、黄色く紅葉した銀杏の木の下で「ぎんなん」を拾って伊丹駅で2時に解散した。荒木村重の生涯を思い浮かべながらの楽しい街歩きになりました。街歩きの計画と解説、藤原様ありがとうございました。



1月号その2に続く